

農業分野におけるドローン活用の事例

バレイショ等への農薬散布をドローンで行う受託組織をJAが設立
JA三島函南 三島函南農業用マルチローター利用組合（静岡県三島市）

導入経緯

<目的> 労働力支援を通じて規模拡大をサポートし、農業所得の向上を目指す。

<背景> 三島馬鈴薯（GI登録）のほ場は傾斜地がほとんどで農地管理の負担が大きく、作業の軽減化と効率的な育成管理のためにドローンを導入。JA共済の「地域農業活性化促進助成金」を活用し、JA三島函南が機体を寄贈。

取組概要

- JA三島函南、JA生産部会員、水稻を受託する組合員、ドローン指導を行う静岡スカイテック、JA静岡経済連などにより構成。
- 生産者5人、JA職員2人が産業用マルチローター教習施設において、操作実技教習及び学科教習を修了。組合内でも農薬散布の安全講習会を開催。
- ドローンによる露地野菜への農薬散布は例が少ない中、バレイショの疫病・アブラムシ対策に農薬の空中散布を実施。今後、使用農薬を変えながら薬効の検証を行い、受託を拡大していく。

| | |
|------|-------------------------|
| 開始時期 | 2019年3月設立 |
| 対象作物 | バレイショ（200a） 水稻（120a） |



バレイショ農薬散布の様子

導入メリット

- 慣行の10分の1の労力で散布可能。
- 人間が畑に踏み入れることでおこる葉や茎への接触による病害を防ぐことができた。